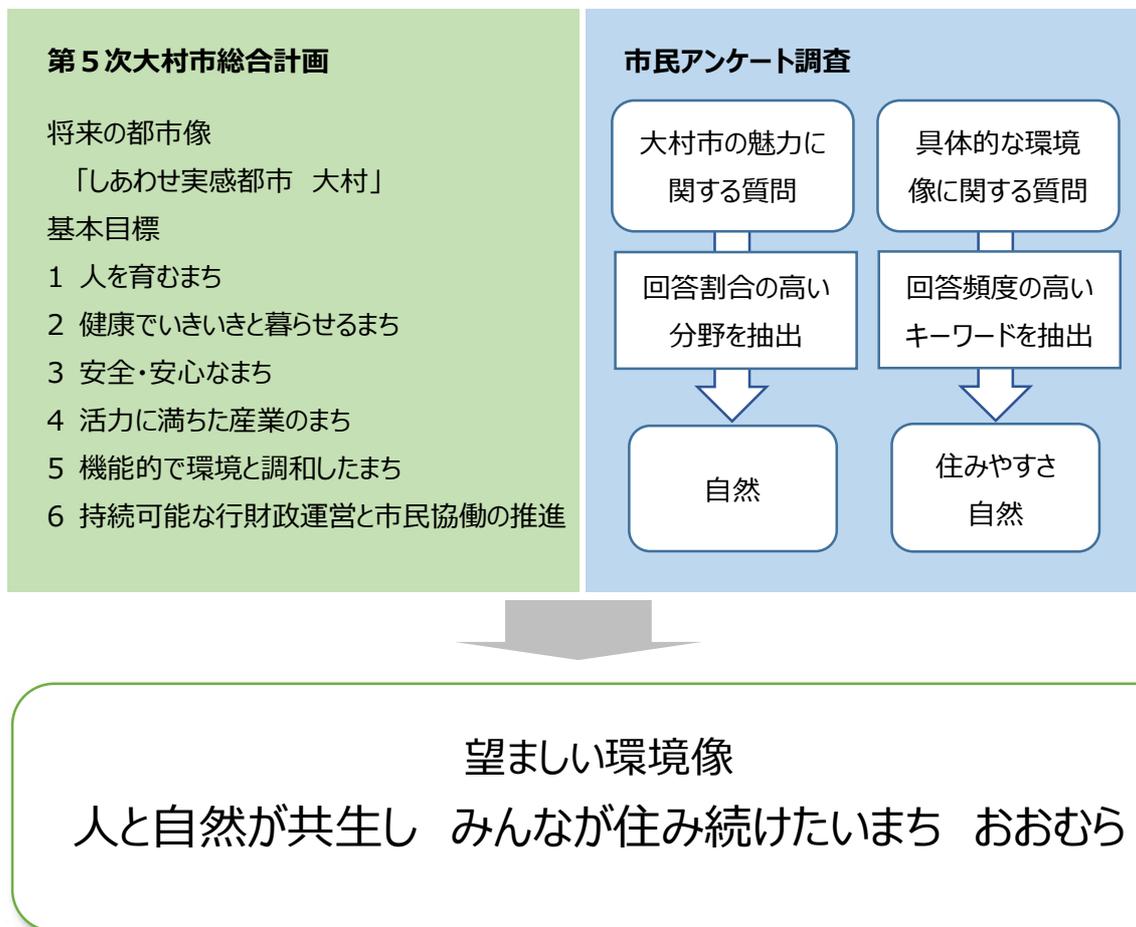


第2章 計画の目標

第1節 望ましい環境像

「望ましい環境像」とは、市・市民・事業者が協働で目指す大村市のあるべき環境の姿を示すものです。「第5次大村市総合計画」の将来像及び基本目標並びに市民アンケート調査から導き出された大村市の魅力及び望む環境像などを踏まえ、次のとおり設定します。



人と自然が共生するまち

市民アンケート調査における大村市の魅力に関する質問では、その魅力として、「長崎空港、大村インターチェンジ、新幹線があること」(回答率：74.1%)との回答が最も多く、次いで「山や海が身近に感じられること」(回答率：46.0%)、「シーハットおおむら、ミライ on 図書館などの都市・文化施設があること」(回答率：34.2%)、「大村湾があること」(回答率：28.1%)でした。また、環境像に関する質問では「自然」に関する意見が最も多く、「人と自然が共生したまち」、「自然が豊かで綺麗なまち」などの意見が得られました。

大村市は、多良山系の森林や大村湾などの豊かな自然環境が身近に存在しており、私たちの生活に潤いと安らぎを与えています。

大村市を特徴づける自然環境を保全し、次世代につなげていくことは私たちの責務です。

みんなが住み続けたいまち

環境像に関する質問では「自然」に関する意見に次いで、「住みやすさ」、「暮らしやすさ」に関する意見が多く、「自然が多く住みやすい環境」、「子供達に安心・安全な町」、「子供から大人まで住みやすい大村市」などの意見が得られました。

みんなで大村市の誇れる環境を守り・育てていくとともに、環境問題の解決に取り組むことで、現在住んでいる人が今後も住み続けたいまちを目指します。

第2章 計画の目標

第2節 基本目標

基本目標については、条例第7条の施策の基本方針で示している自然環境、生活環境及び都市環境などの保全・整備に関する取組に沿って設定しました。

カーボンニュートラル^{※2}の実現に向けたまちづくり（脱炭素社会の構築）

再生可能エネルギーの利用や省エネルギー対策、環境負荷の低い乗物の利用など、様々な地球温暖化対策を推進することにより、脱炭素社会の構築に貢献するまちを目指します。

ごみの減量化・資源の循環に取り組むまちづくり（循環型社会の構築）

廃棄物の4R（リフューズ：発生回避、リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）の取組を推進することにより、資源が循環するまちを目指します

人と自然が共生するまちづくり（自然環境の保全）

大村湾や多良山系などの豊かな自然環境や生物の生息・生育環境を保全し、自然とふれあえる場を確保することにより、自然と人が共生するまちを目指します。

安全・安心なまちづくり（安全・安心な生活環境の保全）

大気・水環境などの保全に努め、みんなが安心して暮らせるまちを目指します。

快適で潤いのあるまちづくり（快適な都市環境の創出）

公園や街路樹などの身近な緑や水と親しめる水辺空間など、自然を身近に感じる空間を整備するとともに、歴史的資源を保全することで、ゆとりと潤いのあるまちを目指します。また、利用しやすい都市環境の整備に努め、快適なまちを目指します。

協働で環境保全に取り組むまちづくり（環境教育・環境学習の推進と協働）

市・市民・事業者が相互に連携を図りながら環境教育や環境学習を推進することにより、一人ひとりが環境に関心を持ち、自分に何ができるかを考え、行動するまちを目指します。

※2 カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること（2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言）